

あてやか

森野 水琴

「艶やか」を「つややか」と読むか「あてやか」と読むか悩むところ。
電子辞書で調べてみることにした。

「つややか」には「つやがあつて美しいさま。うるおいがあつてつやつやしているさま」とある。

「あでやか」には「(アテヤカの転)なまめかしいさま。濃厚な美しさ」とある。

これが「貴^{あて}やか」という言の葉との出逢いである。

「あてやか」には「高貴なさま。上品なさま」とある。用例に源氏物語の一節が書かれていて、私の心は平安時代に飛んだ。

当時の宮中の様子を想像するだけでも「あてやか」を垣間見る思いになる。

書道教室で当時の和歌を書いたび、つかの間の雅^{みやび}を楽しんでいる。

あてやか という言の葉を あなたに届けたい